

子ども会（学習会）だより

MY SKY No.13

マイ・スカイ

1997年7月15日火曜日発行（毎週火曜日子まぐれ発行）

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

私は、タマゴッチが、キライだ〜！！

私、実はタマゴッチがキライなんです。別に、中にいる生き物(?)に責任があるわけではなく、ああいうゲーム自体がキライなんです。かといって他人が持つてのを壊したりはしませんから、その点はお安心ください。

なぜ私がタマゴッチのことをキライなのかといいますと、

マル1 とき、ところ構わず、授業中であつても好き勝手に泣き出す

マル2 成長が早すぎ、生命のありがたみが薄くなる

マル3 飼い主ガイヤになれば、ボタン一つですぐに殺すことができる

マル4 死んでも(殺しても)、またすぐにタマゴからやり直せる

別にタマゴッチに限らずファミコンなんかもそうなんです、「すぐに殺せる」「すぐに生き返る」というのが、私にはどうしても納得いかないんです。命の重さって、そんなもんじゃないと思うんです。「吉成は頭がかたい！昔人間だ！」と言われるかもしれませんが、やはりそう思うんです。私もタマゴッチの世話をしたことがありますから、かわいいのはわかります。わかりますが、でもやはり電氣的な命と接するのであれば、それと同じだけ、いやそれ以上の時間をかけて、トクトクと心臓の動く命のありがたみも、同時に学ばなければならないように思うんです。そうでないと、赤い血の流れる命をいい加減に扱ってしまふような子どもや人間が育つように思うのです。

みなさんの、タマゴッチに対する思いはどんなでしょうか……？

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 堂々とふるさとの名が言える子に(四国地区同和教育研究大会7月10・11日：愛媛県)

7月10・11日に、愛媛県松山市で行われた^{よんどうけん}四同研大会に行ってきました。三木先生、瀬川先生、森口先生、阿部先生、柿原先生と6名で行って来たのですが、いろんな話あり、いろんな出会いありで、本当に有意義な研修となりました。

香川県の部落のお母ちゃんは「子どもが小6のときに立場の自覚をさせた。でも、通っている小学校には『そういう子どもを受け入れる体制がない』と言われ、部落差別に対す

る不安の中、生き地獄のような毎日を過ごしている……」と厳しい現 状を訴えました。

また、「高校生と本気でつながっていく中で、自分の生き方が180°変わった」という愛媛県立新居浜東高校の中井桂子先生の軽さには、私も脱帽しました。メチャメチャ明るいんです。部落解放には、ああいう人物も必要なだと思つづく思いました。

私は、先のお母ちゃんの発言を聞き「堂々とふるさとの名が言える子に」という言葉を思い出しました。みんなこの願いは同じはずだし、ふるさとのことを学べば学ぶほど、その思いは強くなるはずで。そんな地域、学校、学級にするために、みんな、マジに部落問題に取り組んでいきたいものです。それと他県のように、板中も保護者と一緒に県内外の研修に行ければと思います。百 聞は一見にしかず！まず、出向いて、自分のその肌で感じてみませんか？MY SKYに各研究大会の日程を載せますので、是非ともご連絡ください！

最後に、参加者の感想が届いたので、中学生には難しいかもしれませんが、みなさん読んでみてください。

今回で2回目の参加となる四同研。今回は進路保障部会に参加してきました。それぞれの発表・問題提起、それに続く意見交換を聞いていくと、部落の子が仲間と手を取り合い・団結していくためには、やはり一人一人の教師の部落差別に対する姿勢と力量にかかってくるのだと再認識しました。そして今年教員採用試験を受けようとしている自分自身のことを含めて、次のようなことを最後にぶちまけました。

「今日の話聞いていて、問われてくるのは一人一人の教師の部落差別に対する姿勢と力量であると思います。その教師の姿勢と力量を考えたときに2つの相反する思いが僕の中にあります。ひとつは、できるだけ多くの教師とつながりたいというもので、そのために毎週1回同和教育に関する勉強会を開いたり、機会があれば個人的に話をしています。

もう一方の思いは、僕は教員としてはまだ1年半という浅い経験しか持っておらず、こんなことを言うのは生意気だとは思いますが……僕が目から見て「この人は教師やめたらいいのに」とか「この人は教師になるべきでない」とか感じる場合があります。特に中・高では教科分担がありますから、いろんな場面で子どもたちは教師一人一人の部落問題に対する姿勢を見抜くのではないのでしょうか。学習会に参加している生徒からは『はやく学習会終わらないかな、と思っているのが見るからに分かる先生がおる』という声も聞きます。サラリーマン教師が増えてきているんじゃないかと思うんです。確かに教師という職業は残業手当も毛が生えたようなものだし、部活動に本気で関わって

たら休みなんかほとんどありません。その働いた分給与がきちんと支払われないわけですから、明らかにおかしい部分があります。だけど今のシステムの中で、学校をもっと良いものに、子どもとの関わりを良いものにしていこうと考えれば「もう時間外だから仕事をしない」という姿勢では、結局仕事を「快く受ける人に負担がかかってしまうし、いいものもできていけないと思うんです。

でも、そんな教員ばかりでなくて、意欲と熱意を持った教員もたくさんいるんです。しかし、そんな熱意を持った教員が潰されていっているという現状があります。いくら意欲・熱意があっても人の力量には限界があります。熱意を持った教員、仕事を文句を言わずに引き受ける人、または若い教師に「あれも、これも」と仕事が回されるといいう現状があります。これはある高校の新任の先生の話ですが、新任でいきなり3年生の担任を任され、野球部の顧問を任され、教務（時間割を組んだりする）の担当になり、初任者研修もあるし、その上同和教育をするとすればこれはもう大変です。それに、自分よりあまり仕事をしない年配の人が自分より給料を多くもらっていたら、人間の感情としてやる気がそがれる部分があります。徳島県では「同和教育を学校教育の中核に据え……」ということを謳っていますが、中核に据えるにはかなり無理のある勤務状況だと思うんです。本当に中核に捉えることのできるような環境づくりと並行して同和教育を進めていかないと、意欲のある教師がつぶれていくような気がします。……」

と、だいたいこんなことをしゃべったような気がします。矛盾したことを言っているようですが、まず教師の一人一人の意欲と熱意が求められ、その意欲と熱意を生かせる環境を作っていかなければならないということを書いたかったんです。発言したあと、ある先生に「先生の話聞いてて、すごくすっきりしたわ。ずっと心にためてたこと言ってくれたような感じです」と言われ、同じように考えている人は結構いるんじゃないかと感じた四同研でした。いい出会いもあったし、楽しい2日間でした。



☆ 動き出したぞ!!「県中第1回実行委員会」盛大に開催!(7月12日;板野中学校)

いよいよ県中(第2回部落解放徳島県学習会中学生集会)が動き出しました。7月12日、本校の会議室で第1回の実行委員会が行われたのですが、県内参加校9校(板野中、牟岐中、吉野中、大麻中、美馬中、市場中、石井中、上板中、三島中)。大人も含めて、参加人数約70名という大盛会だいせいかいのうちに始めることができました。板中からも9名の参加者があり、

進行も立派^{りっぱ}りっぱに務^{つと}められていました。1回目の実行委員会でこれだけの学校と人数が集まただけでも、本番の盛り上がりが十分予想できます。楽しみです。

実行委員会で話し合った内容としては、

- ・ 自己紹介(名前・学校・学年・部活・趣味等)
- ・ 各学校での学習会の状況(会場数・参加人数・活動内容等)

などです。他にも結婚差別についてや、「学校によっては学習会のことが言えない」という現状もわかり、課題の多さに気づかされた実行委員会でした。

そもそもこの集会をはじめた理由は、「高校での部落問題学習をもっと活発^{かつぱつ}にしたい」というのがねらいでした。せっかく各中学校でしっかりした考えをもって育てているのに、それが高校へ行ったとたん、ほとんど頑張れなくなっています。もし中学生でいるうちにその子らがつながっていられれば、同じ高校になれなくても、「仲間がたくさんいる」と思えるだろうし、ラッキーなことに同じ学校になれば、共に手を携^{たずさ}えて頑張れるはずです。

また、それ以外の効果^{こうか}もあらわれました。中学生自体が、その学校でイキイキしだしたのです。去年から1年ぶりに会った中学生もいましたが、全然違っていました。堂々と、イキイキと、何回も何回も発言を繰り返していくのです。「去年参加した県中で、自分が大きく変わった」と言います。そのとき私は思いました。「教師なんて屁^への突^つ張りにもならん」。いくら私たちが口やかましく言っても、やはり同年代の仲間の声の方が心に響^{ひび}くんでしょね。中学生同士がつながることの大切さを、あらためてひしひしと感^{かん}じました。

さて先生方、それぞれの学級で、どれくらい学習会行事(県中も含む)の大切さを話せているでしょうか？中には、「実行委員会って何？知らなかった」と、終わってから言ってくる先生方も何人かいました。ガクツとききました。部落差別・部落問題をどう考えてるんだろうかと疑^{うたが}わしく思います。部活動なら顧問^{こもん}の先生しか知らないこともあるでしょうが、学習会は部活動ではありません。板中の先生みんなが、学習会行事について知っていなければなりません。私や同和教育主事の阿部先生、学専の先生たちだけが進めているのではないのです。やはり基本は学級なのです。学級の中で、学習会の子がイキイキできていない状況があれば、大問題なのです。今一度、学級を見渡^{みわた}してください。頼みますよ！担任の先生方！(わからないことや困ったことがあれば、いつでも私たちに話しかけてください)

え～、次回の実行委員会ですが、次の通りになっています。多くのみなさん！是非とも自分の考えをしっかり持って、参加してみてください！

集合!!「第2回部落解放徳島県学習会中学生集会」第2回実行委員会
と き; 7月22日(火)13:00受付 ところ; 鳴門市解放センター(TEL89-2090)



6月14日のことになるのですが、ある映画の上映会に行っていました。ロードショーはしてなくて、徳島市内で二日間しか上映しませんでした。その名は「秋桜(コスモス)」。私、^{ひきびき}久々に感動しました。映画「学校」^{いらい}以来の感動といっ^いても^す言い過ぎではありません。

笑顔の奥の 涙が見えますか

ひとり、限りある命を背負って…ひとり、哀しみに耐える勇気をもって…
ここには、いとおいまで ^{ひきびき}に まっすぐに生きる ^{いらい}二人の少女がいる。

ストーリーは……南米で事故にあい輸血によってHIVウイルスに感染した女子高生明子^{かんせん}(小田茜^{おだ あかね})が、故郷に帰る。7年ぶりに再会した親友・夏美(松下恵^{しんゆう})と二人で、高校での秋の文化祭に向けてお笑いコン트의練習に取り組む。エイズに対する差別と偏見に満ちあふれた学校や地域社会に抵抗し、^{ていこう}必死に^{ひっし}訴えながら、^{うった}かつたくましく生き抜いていく……というものです。

終盤では、大げさじゃなく、本当に会場全体からすすり泣く声が聞かれ、私は数年前、全体学習で感じたあの熱く燃え上がるような感動を、この映画を通じて思い出することができました。是非とも私たちのこの板中で、もう一度あの感動を感じ合いたいものです。

この映画「秋桜(コスモス)」を、どうにかして多くのみなさんにも観てもらいたいと思うのですが、今のところ良いアイデアが浮かびません。私のボーナスをつぎ込み、さくらホールででも上映しようかとも考えたのですが、^{かんじん}肝心の「人」が入らないことには話になりません。多くの人に観てもらいたいアイデアがあれば、誰か教えてください。よろしくお願いします。

さて、夏休みになればすぐに県総体がありますが、出場する男子剣道部・女子バスケ部・野球部のみなさんはがんばってくださいね。できるだけみんなも応援に行こう!また、夏休みを^{ひか}控えて学習会行事もたくさんあります。できるだけ多く参加して、今までになく^{じゅうじつ}充実した日々を過ごしてみましょう!友達も一緒に^{いっしょ}誘うと、おもしろさもきつと^{さそ}倍増するはず!「何をしたかよくわからない夏」じゃなくって「〇〇をした夏!」と大声で言える

ように過ごしてみましよう！！

なお、毎週金曜日に郡頭教育集会所で夜7:30から行っている「同和教育・部落問題」勉強会は、夏休みの間しばらくお休みとし、次回2学期の9月第1金曜日(5日)に行いますので、是非とも覚えておいてくださいね。具体的な勉強内容も、9月5日に決めようと思っています。よろしく！！

それでは、しばらくのお別れじゃ～！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★

7月18日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～；郡頭教育集会所)

19日(土) 終業式

20日(日)～25日(金) 徳島県中学校総合体育大会

22日(火) 「第2回徳島県部落解放学習会中学生集会」第2回実行委員会(13:00～；大麻中学校)

8月7日(木) 第2回徳島県部落解放学習会中学生集会(徳島県青少年センター；10:00～)

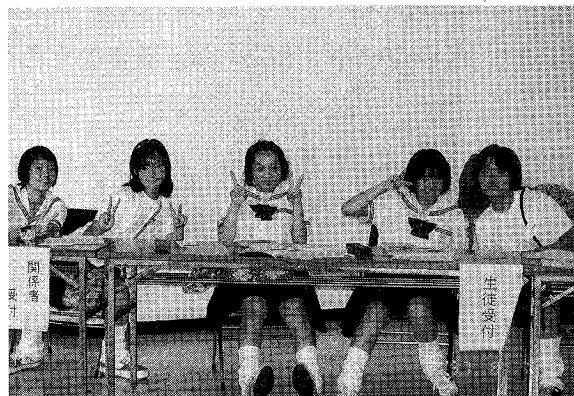
9日(土)・10日(日) 板中学習会県内一泊研修会(土柱自然休養村センター)

18日(月)・19日(火) 徳島県解放子ども会一泊研修(牟岐少年自然の家)

28日(木)・29日(金) 板中学習会県外視察・交流会(羽曳野中学校、大阪人権博物館)



部落解放第2回徳島県学習会中学生集会
(開会行事)(97. 8. 7)



同上により省略